

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：公共交通（１）	
日付：１１月　３日　（月）曜日、セッション時間：　　９：００　～　１０：３０	
司会者名（所属）：　中村文彦（横浜国立大学）	
討 議 内 容	セッション全体：バス輸送に関する３つの講演は、公営バス事業の効率性、中山間地域での住民参加、海外での事業体制比較と、別々の視点からなっており、討議についても、個別の講演に対する質疑となっていた。多くの質問やコメントがフロアから寄せられ、充実した議論の時間となった。個別の講演に対する討議の概略は以下のとおりである。
	２７１の「DEA 手法による公営バス事業の効率性分析」(平井健二 (復建調査設計株式会社)) については、入力出力データの制約や工夫可能性、中間投入をまとめてしまっている理由、外部環境の違いの考慮方法、フロンティアとなっている事業者が適切な見本となり得ているのか、事業体での評価と路線毎の評価、公営事業に限定することの意味、コミュニティバス問題への適用可能性などについての意見交換がなされた。
	２７２の「全世帯参加型バスサービス導入による交通行動の変容」(川端光昭 (長岡技術科学大学)) については、会費収集方法と会費額決定の合意形成プロセス、参加しない２％の人、収入と支出の差額の問題（運行基金なくなったらはどう持続させるのか）、予約制の見直し白ナンバーへのこだわりをどう考えるのか、合意形成の問題、制度設計の問題、合併後の自治体意思決定の問題についての今後の見通し、などについての意見交換がなされた。
	１０９の「A Study on Competition and Organizational Arrangement in Urban Public Transit: Approach to Constructive Regime in Bus Service」(Thatree Doungporn (東京大学)) では、想定している対象国のイメージの明確化、結論で述べている古い体制と新しい体制の違い、収集データの中身と収集方法、分析方法の客観性などについての意見交換がなされた。